

第3回「海上保安の日」俳句コンテスト各賞発表

海上保安庁は昭和23年5月の創設以来、日本の海の平和と安全を守ってきました。海上保安庁の創設を記念して、初代長官である大久保武雄氏が庁舎屋上に海上保安庁の旗である庁旗を初めて掲揚した5月12日が「海上保安の日」と定められ、この日を初代長官大久保武雄氏が俳人（俳号：橙青（とうせい））であったことにちなみ、昨年に続き、第3回「海上保安の日」俳句コンテストを開催いたしました。

応募部門を一般の部と高校生以下の部、応募期間を令和3年12月1日（水）～令和4年3月1日（火）までの3か月間として募集し、一般の部2,204句、高校生以下の部1,317句、総数3,521句の投句がありました。

これを9名の選者が選考し、大賞（橙青賞、海上保安庁長官賞、海上保安協会会長賞：一般の部3句、高校生以下の部3句）、特選（一般の部7句、高校生以下の部9句）、佳作（一般の部73句、高校生以下の部53句）の作品が決定しましたので、お知らせします。

<選者>

大久保 白村	審査委員長・(公社) 日本伝統俳句協会顧問
大串 章	(公社) 俳人協会会長
中村 和弘	現代俳句協会会長
永田 龍太郎	国際俳句交流協会会長
富士 眞奈美	俳人・女優
夏井 いつき	俳人
岸 ユキ	海上保安友の会理事・女優
稲畑 廣太郎	(公財) 海上保安協会評議員・(公社) 日本伝統俳句協会理事
佐藤 雄二	元海上保安庁長官

◇ 一般の部 ◇

大賞

○橙青賞（初代海上保安庁長官 大久保武雄俳号）

この海も誰かの故郷海保の日 群馬 遠藤 幸子

選評（中村 和弘）

故郷は陸地だけではない。海もまたかけがえのない産土なのである。日本は、言うまでもなく島国、海こそ母郷である。そして、海の防備は陸の防備でもあった。この句の<この海も誰かの故郷>との認識には平和を願う心がこもる。

選（夏井いつき）

○海上保安庁長官賞

海保の日操舵誇りし夫偲ぶ 兵庫 渡辺 しま子

選評（佐藤 雄二）

海保の日は、大久保武雄初代長官が庁舎屋上に庁旗を初めて掲げた記念すべき日であるが、殉職者の慰霊の日でもある。亡き夫が殉職したかどうかは、この句から推し量れ

ないが、海保の日に海上保安官だった夫を偲ぶ妻に共感できる句だ。「操舵誇りし」が在りし日の亡夫の姿を思い起させる効果を与えている。

○海上保安協会会長賞

海めぐる日々が海上保安の日 新潟 森山 勉

選評（大久保 白村）

作者は巡視船に勤務されている方かもしれない。そうでなければ巡視船に勤務されている方への応援歌である。巡視船に勤務されている方は洋上勤務の日々、まさに毎日が海上保安の日である。海上保安の日に洋上勤務の方々への感謝を詠まれた句でもある。

○特選7句（各選者の特選句：順不同）

① 特選

「へいわってなあに」と問ふ子海保の日 群馬 外丸 幸子

選評（岸 ユキ）

「へいわってなあに」と子供が聞いて来るほど今日本は平和があたり前。しかし現実には海上保安庁が守って下さっているから……。国内の災害しかり世界が大変な状況にある中、平和の重みをあらためて感じる句でもありました。

② 特選

使命帯びはためく旗よ海保の日 埼玉 坂田 宗大

選評（大串 章）

海上保安庁は日本の海を守るため様々な任務を果たしている。海上犯罪の取締り、領海警備などのほか、海難救助、海上汚染防止など多方面で活動している。正に八面六臂の活躍である。この句、「使命帯び」と言い「はためく旗よ」と強く言ったところが良い。

③ 特選

海保の日わが背後にはわが祖国 千葉 小田中 準一

選評（永田 龍太郎）

「海保の日」は、海上保安庁の記念日であり、「海上の保安の日」を言う。海上保安庁の職員は、この日をわが日本の海上、その沿岸警備の任務を担い祖国日本のために日々いそしんでいるというその使命感を昂揚する日として記念日としている。作者はまさに「わが背後にはわが祖国」と力強く自らの使命感を自覚している。海保の日に相応しい一句である。

④ 特選

手で触れる初めての波海保の日 兵庫 足立 有希

選評（夏井 いつき）

子供が生まれて初めて海を見た日。小さな手をつけ、初めて波に触れた一瞬の感動が、こんなに鮮やかな一句になりました。五感を使って詠まれた句は、読み手の五感も刺激します。潮水の辛さや、波音の響きがいきいきと蘇ります。子供達の為に、安全な海を守りたいという気持ちが、『海保の日』の季語にこもっています。

⑤ 特選

敬礼の肘の鋭角海保の日 愛媛 ひでやん

選（永田 龍太郎、夏井 いつき、佐藤 雄二）

⑥ 特選

海保の日月にも海のありにけり 東京 新倉 麻希

選評 (富士 眞奈美)

月の海、とは「静かな海」でしたね。静かな海であり続けてほしい、との願いが、こめられているように思いました。

⑦ 特選

青春の眩しき五月海保の日 埼玉 関 とし子

選評 (稲畑 廣太郎)

青春時代の五月を謳歌している姿が見て取れる。五月といえば初夏の清々しい季節であるが、海保の日もそんな時期に制定されたのである。日本の海を守る雄々しい姿が、五月という季題を通して明るく伝わって来る句である。

佳作73句

風を読む最前線を守る夏	北海道	秋田	聡子
地球儀の海青々と海保の日	東京	森山	博士
灯台のすくと立ちて雲の峰	福島	鈴木	直樹
薫風や庁旗空うつ海保の日	東京	羽住	博之
父と子の白制服や海保の日	奈良	岩井	壮介 (浜千鳥)
凧の日にもありけりの海保の日	大阪	市場	さと枝
突き上げる腕はくろがね海保の日	愛知	岩田	勇
わたつみの風いや強し海保の日	神奈川	竹澤	聡
秋高し声よくとほる海保員	神奈川	竹澤	聡
領海を流氷切り裂き守る船	宮城	鈴木	優二
少年の夢の制帽海保の日	福島	椎木	亜美
国境を海に見つむる海保の日	徳島	谷本	良裕
防人も守りし海や海保の日	千葉	安食	佳子
荒海に不動の大志海保の日	千葉	秋元	孝生
弓なりの日本列島海保の日	大分	後藤	利夫
岩頭に灯台ともす初明り	新潟	美濃部	紘三
波高し警笛ながく海保の日	新潟	美濃部	紘三
流れ着く木片海上保安の日	新潟	村山	芳行
綱一本に総身ゆだね海保の日	愛知	斉藤	浩美
国境の海平らかに海保の日	神奈川	下村	修
巡視船闇夜に輝く宝船	千葉	上田	康彦
命ひとつ地球もひとつ海保の日	東京	曾根	新五郎
大海の平和を繋ぐ海保の日	東京	星野	愛
灯台の永遠の煌めき海保の日	東京	星野	愛
朝陽背に還る漁船や海保の日	埼玉	中野	弘樹
制服の羅針の釦海保の日	滋賀	別役	昌子
一秒の重き訓練海保の日	兵庫	足立	有希
国守る思い新たに海保の日	茨城	早雲	大祐
海原に平和見据える海保の日	愛知	幅	茂
爽やかにうりずん過ぎて海保の日	沖縄	上西	真理
黒潮に航跡確と海保の日	群馬	高相	光雄
海保の日海に殉じた父想う	福岡	三宅	隆吉
憂国の友と語らん海保の日	兵庫	松本	宿

海保の日第五管区の波平	兵庫	尻無浜 一美
海原に海保の闘志沸きて夏	栃木	藤田 耕治
海保の日涼しき風は海にあり	埼玉	山崎 秀雄
女島灯台郷愁の海保の日	北海道	菖蒲田 辰子
海保の日望遠鏡に見る祖国	愛知	立部 笑子
白き波白き制帽海保の日	愛媛	ひでやん
薫風に庁旗掲揚海保の日	山形	遠藤 克也
朝風の沖へ凜々しく巡視船	青森	竹浪 誠也
水脈ひいて豊漁帰港海保の日	秋田	土谷 敏雄
海守りの気概を知るや鱗雲	北海道	工藤 律夫
ごががと錨まき上げ海保の日	福岡	古賀 貴久
橙青の遺徳かがやく海保の日	兵庫	渡辺 しま子
白南風やたゆまず進む巡視船	千葉	玉井 令子
海保の日陸より高き海の面	福岡	古賀 貴久
海保の日こんなにも海美しい	神奈川	川越 羽流
海保の日一糸乱れぬ挙手の礼	大阪	渡辺 美紀代
手庇に探す国境海保の日	東京	柴野 はづき
ゆつたりと雲流れをり海保の日	愛媛	大賀 康男
土用波蹴って海保の巡視船	千葉	須賀 毅
小さき手敬礼ごっこ海保の日	茨城	菊池 直哉
海保の日母なる海と今生きる	沖縄	細羽 美咲
島々に神御座します海保の日	愛媛	川嶋 健佑
大海を昇る南風巡視船	埼玉	吉野 敬子
船腹の白迷いなき海保の日	神奈川	西田 克憲
平和への針路確たり海保の日	東京	毛塚 文憲
守り抜く海保の使命夏怒涛	静岡	松下 龍之介
夏服のスカーフ青し海保の日	埼玉	奈良 勇希弥
海保の日一年の計ここにあり	宮崎	田上 幸喜
美ら海を護る父の背海保の日	沖縄	城戸 伸一郎 (唐草もみじ)
灯台のレンズは年輪海保の日	宮城	山口 義昭
海守るゴールキーパー海保の日	神奈川	立山 由美
海保の日マストに聳ゆ日章旗	東京	横山 茂樹
青き海青き空あり海保の日	東京	森山 博士
潮風に庁旗はためき海保の日	兵庫	今北 眞奈美
海保の日庁旗平和の風孕む	埼玉	関 とし子
何事も無き日何より海保の日	埼玉	武村 郁子
羅針盤の旗が矜持の海保の日	新潟	渡辺 進
四方の海晴れ渡りけり海保の日	神奈川	久保田 聡
巡視船に父の面影海保の日	大阪	花房 康子
広き海守り務める海保の日	佐賀	森澤 利

大賞

○橙青賞（初代海上保安庁長官 大久保武雄俳号）

海護る強い眼差し海保の日 神奈川 山田 浩生

選評（大串 章）

四方を海に囲まれた日本にとって、平穏な海は何としても必要である。悪質な密漁や廃棄物の投棄など絶対にあってはならない。こうした違法行為を防いでくれるのが、海上保安官の海を護る「強い眼差し」である。

選（大久保 白村、永田 龍太郎、佐藤 雄二）

○海上保安庁長官賞

冬銀河大海原に巡視船 神奈川 塩見 耶摩斗

選評（永田 龍太郎）

季語「冬銀河」を幹旋して「大海原に巡視船」と一句を結ぶ。冬銀河の皓々と輝く夜、日本の海上と沿岸の警備のため、昼夜を問わず巡視船は運航されている。このことに感謝の心を尽くし掲句を詠む。大海原という大きな景の中の巡視船にフォーカスした句作の上の面白さと、祖国警備の自覚を持っていることに敬意を表すものである。

選（夏井 いつき、稲畑 廣太郎）

○海上保安協会会長賞

海見ると父親思う海保の日 鹿児島 濱口 慶行

選評（大久保 白村）

私は海を見ると必ず父を思い出す。島国の日本の海を日本人の手に取り戻した戦前の日本には無かった海上保安庁という組織誕生の時の父の苦勞のことを。海軍とは違うが島国日本安全の為には必要な組織が海上保安庁なのである。

選（中村 和弘）

特選9句（各選者の特選句：順不同）

① 特選

海保の日海の言葉を聞いている 愛媛 阿部 縁

選評（夏井 いつき）

子供の頃の海は、広い世界へ続く夢を語ってくれました。青春時代の海は、未来に迷った時に励ましの言葉をかけてくれました。島国日本に暮らす私達は、どんな時でも海に向かい、海の言葉に耳を傾けて来たのだと改めて思います。海に対する親しみを思い出させてくれる一句です。平和で安らかな海の言葉が聞こえて来ます。

選（富士 眞奈美）

② 特選

砂浜や祖父の香におう海保の日 鹿児島 吉留 愛美子

選評（中村 和弘）

俳句で「海」を題にすると、父や祖父が出てくることが圧倒的に多い。海は、今も昔

も男の鍛練そして成長の場の側面があるのかもしれない。この句は砂浜での祖父の香と海保の日の取り合わせである。父祖代々引き継がれてきた海浜の有難さがこもっている。

選（佐藤 雄二）

③ 特選

プラスチック海が死んじゃう海保の日 鹿児島 福田 壮太

選評（佐藤 雄二）

国連の報告では、プラスチックごみの9割がリサイクルされておらず、毎年、800万トン以上のプラスチックがごみとして海に流れ込んでいるとのこと。この句は、そうした海洋汚染による環境危機を「海が死んじゃう」という言葉で表している。海保に何とかしてくださいと懇願しているように聞こえる。

選（富士 真奈美）

④ 特選

潮風の香る教室海保の日 神奈川 石川 胡桃

選評（岸 ユキ）

潮風の香る教室で何が語られたのでしょうか。身近な海の事から海に囲まれた日本。だから国境を海上保安庁の保安官の人達が危険な中守って下さっている・・・という事など「だから平和なんだ！」という子供達の声が聞こえて来そうです。

選（中村 和弘）

⑤ 特選

水葬の濛や海上保安の日 愛媛 田邊 広大

選（中村 和宏、永田 龍太郎、夏井 いつき）

⑥ 特選

海保の日魚のごとく眠りおり 愛媛 松本 虹輝

選（中村 和宏、富士 真奈美、夏井 いつき）

⑦ 特選

海保の日海は広いな大きいな 鹿児島 山下 武俊

選評（富士 真奈美）

私は伊豆生まれの伊豆育ち。海といえば駿河湾です。海の幸にはすっかりお世話になりました。海は広いな大きいな、月が登るし日が沈む。海にお船を浮かばせて行ってみたいなよその国。大好きな歌。まさに海は自然。海は希望。です。汚さぬように。海を静謐に保って、人間は生きなければ。

⑧ 特選

海保の日涼しい風と波の音 鹿児島 小村 凜

選評（稲畑 廣太郎）

海保の日がある五月は夏の始めの空気が清々しいですね。そんな時に海辺に行ったのでしょうか。ちょうど海保の日だった的呢ね。沖には巡視船もいたのでしょうか。涼しい風を気持ち良く感じている作者の明るい姿が伝わってきます。

⑨ 特選

海保の日想ひを語る少女の背 神奈川 新川 絵玲菜

選（富士 真奈美、岸 ユキ、佐藤 雄二）

佳作 53 句

汗拭い海愛し守る海保の日	北海道	小林 姫碧
海保の日保安官にオレはなる	神奈川	塩見 耶摩斗
夕波の音やわらかく海保の日	愛媛	馬場 叶羽
夕波は鎮魂のごと海保の日	愛媛	阿部 縁
ノートに青空を広げ海保の日	愛媛	寺本 希海
海保の日豊かな海をいつまでも	鹿児島	中拾石 光彩
海保の日日本列島守り抜く	鹿児島	福岡 蓮
海保の日故郷の海へ思いはせ	鹿児島	村山 柚希
海保の日海の生き物大切に	鹿児島	中尾 真奈実
海保の日平和な海にルールあり	東京	櫻井 太遥
海保の日海鳥の歌透きとおる	愛媛	安野 陽音
制帽と目に入る陽ざし海保の日	東京	永井 遥
亡き父の敬礼真似す海保の日	秋田	利部 瑠南
五月晴れ憧れ抱く海保の日	神奈川	立川 蒼羽
海保の日家族で学ぶ海のこと	鹿児島	田尻 獅龍
守りたい海の健康海保の日	鹿児島	原 禾凜
夏の日の海はおだやか海保の日	鹿児島	諏訪免 俊太郎
これからも海上保安の日受け継ごう	鹿児島	高橋 涼佳
海保の日祖父の背中をおいかける	鹿児島	池上 音々
海守り日本も守る海保の日	鹿児島	森下 海音
海保の日今年もみんなで守ろうよ	鹿児島	佐々木 結愛
海保の日光かがやくみんなの目	鹿児島	林 勝太
海保の日みんな一緒に砂歩く	鹿児島	上口 杏奈
海保の日父と二人でダイビング	鹿児島	平野 颯摩
海保の日見渡す海は今日も風	山口	河村 夏宝
号令の声ひびく朝海保の日	愛媛	宇都宮 柚菜
海開き遭難護る海保の日	三重	熊島 諒大
穏やかな海に感謝を海保の日	神奈川	石川 胡桃
やはらかく薫る海風海保の日	兵庫	武田 奈々
海保の日海と私を見直す日	鹿児島	村田 愛唯菜
海上保安の日かすかにとどく波の音	鹿児島	木之下 博飛
いつまでも海に平和を海保の日	鹿児島	本村 実結
海保の日に海を見わたし暑くなる	鹿児島	福山 裕哉
大海と平和を守る海保の日	鹿児島	川口 祐華
海のことたくさん知ろう海保の日	鹿児島	前田 明莉
海保の日ゴミをしっかりと捨てようね	鹿児島	吉原 昂
海保の日空を見上げて海を見る	鹿児島	丸山 琉依
錦江湾キラキラ輝く海保の日	鹿児島	宮崎 俊弥
あら波で泳ぐと危ない海保の日	鹿児島	東 七海
海守る海上保安の日さあみんなで	鹿児島	茶園 みなみ
海保の日見えないところでありがとう	鹿児島	上園 聡大
仁愛の心すててはならない海保の日	鹿児島	西 葵帆

海保の日瞳に映る乱反射	鹿児島	末満 咲菜
かもめらと翼広げた海保の日	鹿児島	末満 咲菜
海眺め気を引きしめよう海保の日	鹿児島	松永 佐和子
夏休みきれいな海で海保の日	鹿児島	山ノ内 優真
友達と海にあいさつ海保の日	鹿児島	孝 美空
海保の日人と海とつながる日	鹿児島	坂下 藍花
海保の日海鳥とびかう水面の上	鹿児島	高橋 龍成
夏海に夕日がひかる海保の日	福岡	中菌 吏湖
海保の日未来に残そう青い海	福岡	大坂 明央依
ひらひらと船首旗揺らし海保の日	神奈川	山田 晃生
新鮮な魚へ合掌海保の日	岐阜	加藤 凜

【本件問合せ先】

公益財団法人海上保安協会「海上保安の日」俳句コンテスト係 小林、水島、植松

〒104-0033 東京都中央区新川 1-26-9 新川イワデビル 7F

TEL : 03-3297-7580 FAX : 03-3297-7590